



旧水沼製糸場

所在地 桐生市黒保根町水沼 173

所有者 杉崎 良樹氏

前橋の大渡製糸場で技術指導を受けた星野長太郎が洋式器械製糸場を水沼村に設立し、明治7年（1874）2月に開業したのが「水沼製糸場」である。製糸場の従事者は明治14年には674人を数えるほどの隆盛ぶりだった。

長太郎の実弟が日本の生糸貿易の先駆者と言われる新井領一郎、横浜に販売拠点を持っていた新井の活躍で水沼の生糸は外商によらない直輸出を始め、ニューヨークに住んだ新井は日米両国を結ぶ架け橋となった。

製糸場は明治32年に廃業し、現在は長屋門や蔵の一部が残されているのみだが、蔵には歴史的な資料が多く残され研究が進められている。

敷地に積まれた大規模な石垣が、製糸場の面影をわずかに残し、渡良瀬渓谷を見下ろす豊かな自然の中で、当時の産業と生活を偲ばせる風景が現所有者の手で守られている。

